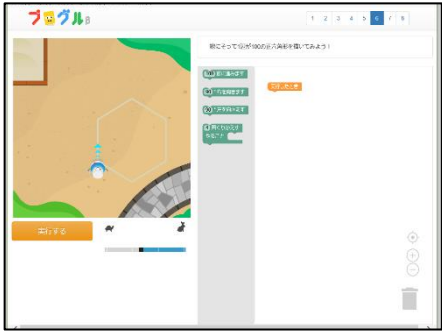


小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
 未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	算数「多角形の学習」	
学年	小学校第5学年	
目標	図形を構成する要素に着目し、プログラミングを通した正多角形のかき方を発展的に考察したり、図形の性質を見いだしたりして、その性質を筋道を立てて考え説明する。	
教材タイプ	ビジュアル言語	
使用教材	プログル	
環境	児童用ノートPC40台を整備したPC教室を使用	
都道府県	神奈川県相模原市	
実施校	相模原市立二本松小学校	
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<ol style="list-style-type: none"> めあてを確認しよう 「正多角形をかき方を考えよう。」 コンピュータでプログルをひらこう 「正多角形の性質をもとに、正方形や正三角形、正六角形をかきましょう。」 正多角形を作図するプログラムをつくりましょう。 <ol style="list-style-type: none"> ①正多角形をかき手順を確認しよう。 ②プログルを使い、正多角形をかきプログラムを作成しよう。 どうしてコンピュータで正三角形を作図する時は、内角の60°ではなく120°なのか考えてみよう。 まとめ 学習を振り返り、今日気付いたことを確認する。 <input type="checkbox"/>正多角形をコンピュータで書く方法を考えることを通して、図形の様々な性質を考察することができました。 <input type="checkbox"/>今日、私にとって発見だったのは、() ということです。 	 <p>図 作成するプログラムの実行画面例</p>
成果と課題	自分で角度を打ち込んでキャラクターを動かすことで、内角の和をより意識することができた。課題としては、プログラミングに慣れている児童と、そうでない児童の理解の差が大きいことが挙げられる。	